

令和5年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞(事務次官賞)

「 ぼくにできること 」

岐阜県 高山市立東小学校 5年 都竹 詠太

7月の初め、大雨が降りました。ぼくはサッカーの練習に行っていました。家に帰ると、お父さんがあわただしく準備をしています。ぼくのお父さんは消防団員です。火事や災害時には出動要請が出ます。そしてお父さんは消防の活動服に着替え、ぼくたち3兄弟に、

「お母さんを頼んだぞ。」

と言って家を出ていきました。お父さんは、消防で出動するとき、いつもそう言って行きます。「お母さんを頼むって言われてもなあ・・・。」ぼくは心の中で思いました。ぼくができることは一体何だろうと考えてみました。

まずは、大雨が降ったとき、どんな危険があるのかをハザードマップで確認してみました。するとぼくの家のは、土砂災害特別警戒区域(急傾斜)であることが分かりました。レッドゾーンとも言われ、土砂災害に特に気を付けなければいけない場所です。確かに雨が長く降ると、お母さんは裏の竹林の様子を気にしていたことを思い出しました。自分の家にはそんな危険があるなんて今まであまり思っていなかったの、なんだかすごく怖くなりました。

そんな時に思い出したのは、4年生の総合の学習で防災について学んだことです。岐阜大学の村岡治道先生は、「早いタイミングでの避難開始、避難完了が大切だ」と何回も繰り返しお話をされていました。大雨が降ったときは、道路や川、用水路などがいつもと違った様子になることを映像で見ました。早いタイミングで避難を始めれば、避難場所までの経路の安全性が高いですが、避難が遅れてしまうと、自分たちだけではなく、救助する人たちも危険に巻き込んでしまう例もあることを知りました。早いタイミングで安全な場所に避難することは、自分の命を守るだけでなく、安全を守る人たちの命を守ることもつながるといことです。ぼくはとても大切なことを学習していたことに改めて気づかされました。防災について学んだことを家族に伝えること、これがまず今のぼくにできることの1つだと思いました。

土砂災害特別警戒区域である家のは、高いところで約5メートルある、コンクリートの壁があります。これは、約35年前に作られたとおばあちゃんに聞きました。そしてその壁の上には、竹や木などで生い茂った急な斜面があります。ぼくのおじいちゃんは、1年に1回、その竹を所々切り倒し、整備をしてくれています。竹の根は、木の根に比べて浅くしか張らず、雨が降ると竹やぶごと斜面を滑り落ちる危険があるということが調べてみると分かりました。整備されていない竹やぶは、さらに土砂崩れの危険性が高いということも分かりました。おじいちゃんが、毎年整備をしてくれているおかげでぼくの家は守られていたのです。

土砂災害に巻き込まれないようにするには、早いタイミングで避難開始、避難完了すること、土砂災害を防ぐためには、その場所をしっかりと整えることも防災につながるということを知りました。どちらも土砂災害から命を守るために大切なことだと思います。ぼくはとても大切なことを学校で学び、そして大切なことを家族が行ってくれていたのだということに改めて感じました。これからぼくは、学んだことを家族に伝えたり、家族が行ってきたことを受け継いだりして、自分の命、そして家族の命を守れるようにしたいと思いました。